

# 茗溪学園中学校高等学校

## Study Skills を身につけさせる教育 その 17 Social Skills (2)

教務部長 田代 淳一

教科内外の教育活動を通して Skill Training を行う茗溪学園では、Study Skills と同様に Social Skills も重視して指導しています。今回は Social Skills のうち集団指導として実施しているいくつかの事例を、私の関わってきた学年やクラスのケースで紹介します。

### 1 学級指導の中で

茗溪学園では新年度初めの学級内の役割決めで HR 委員（学級委員）の立候補・選挙を行います。この時にできるだけ「手順」にこだわる姿勢を見せます。民主的な集団形成には民主的な手順が不可欠だからです。

HR 委員の役割、これが立候補と選挙で選ばれるということにどんな意味があるのか。候補者に求められるものと、選ぶ側の責任について語り、あえてこの方法をとることの教師側の決意を話します。

10年以上前と異なり、今、日本の学校では選挙で生徒代表を選ぶことがほとんど無くなってきています。“周りの空気を読めずに”立候補してくる子へのその後の陰湿な嫌がらせがどの年齢段階でも発生し、受ける側の子がそれを“いじめ”だと感じれば「いじめが存在する学級」となってしまう世の中になっているため、できるだけ原因となりうる機会を設けないようにしているからです。

だから、まずその風潮と戦うという宣言をします。人間誰でも持っているねたみ・嫉妬心・ひとを蹴落としたいという暗い感情を、この学級では表出させないという決意表明です。これがないと、現代の子ども達は安心してリーダーに立候補ができません。

小学校時代に自分が成績が良いことで目立つために受ける様々な攻撃を懸命に避けてきた本当に賢い子たちは、非常に用心深くなっています。（それだけ日本社会の闇が深くなってきています。お笑い番組の「あの子、KY（空気読めない）だよ〜」で笑いをとるスタイルはそれを浮き彫りにしています）

ですから、中学1年の最初の、教師の「民主的な手順」の呼びかけに応じてくる生徒たちは、ある意味まだ無防備な子たちです。しかし、そのような子たちをリーダーとして民主的に扱ってあげ、教師がクラスや学年の正義を保ってみせてあげると、やがて自分を隠していた子たちも安心して自分を表出し始めます。その最初が大事なのです。

ある年の中学1年のクラスの最初の LHR で、担任の私が様々な提案をしました。まず、「朝と帰りの SHR は生徒である君たちが主体の学級について議決運営する場合なので HR 委員が司会を

すること。」「各教科係は責任を持って次の時間の準備すべき事を取材し伝達すること。」「学級の様々な問題点への対処の提案は立候補・選挙で選ばれた班長（班が6つあり、男女各6名の班長が必要です）が班長会という組織を形成して行うこと。」「班長会には HR 委員を含めること。」「そして、班は班長会による非公開班編成によって編成し、編成後、編成目的と編成案を班長会から提案し学級総会の承認を受けて成立する。（承認の基準も討議します。過半数なのか、3分の2以上なのか）承認を得られなかった場合は、再度編成し直すか、班長会が総辞職するかを選択する。」、と言う提案です。

この提案を、学年行事の英語劇（全クラスの全班が発表し、最優秀班や総合優勝クラスが審査されます）に適用すると、「クラス優勝しよう」という目的で班編成することを HR 委員が提案し、班長の立候補を募り、選ばれた班長は総合優勝するための班編成を提案するというものです。

この私の提案に対し、イギリス現地校から入学したAさんは「HR 委員は班長会に加わるべきでない。独立しているべきだ。」と修正案を提出しました。私が仮の議長をしていましたが、クラス全員で、このAさんの修正案を審議し、可決しました。

このように、子ども達にまず「民主的な手続き」とそれによって保障される権利について体験的に教えていきます。これが Social Skills 獲得のためのとても大切なステップであると私たちは考えています。



中学1年生の体験入寮（文章の内容と関係ありません）